

国内研修報告書

大学の夏季休業期間 8 月 31 日から 9 月 2 日を利用して、秋田県山田郡藤里町にて二泊三日の国内研修を行った。今回は藤里町社会福祉協議会からの提案で、社協プログラムであるきらり☆カリキュラムに沿っての活動となった。

以下、今回の国内研修について記す。

藤里町と「ごまちゃん」の活動

藤里町は、秋田県の北部に位置し、青森県との県境一帯は標高 1 千 m を超える山並みが連なる白神山地である。その面積は 282.13km² と広大だが、北部一帯は米代西部森林管理署が管轄する国有林で、その面積は 182.7km² で全面積の 64.8% を占めている。人口約 3000 人のうち 40% ほどが高齢者の小さな町である。

この国内研修の目的は、福祉最先端の土地藤里町で、学部生としての学びを深めること及び継続的な関係を築くことで微々たる力ではあるが地域高齢者の心理的孤独を和らげることであった。

主な活動としては、社協事業についての講習、独居高齢者宅訪問、デイサービスでの傾聴、北部金沢地区住民高齢者との交流、里山見学、熟年バレーボールチームとの交流、グループホーム「ぶなっち」での傾聴、「FujisatoREC」のワークショップ参加及び広報動画作成であった。

「ごまちゃん」が藤里町で活動を始めてから 11 年が経つ。それだけ地域住民の方々との繋がりや絆は深く、町で歩く私たちを見ては「今年も来てくれたんだね」と声を掛け、温かく受け入れてくれる。藤里町は高齢化の進んだ閉鎖的な地域であるように感じられるが、その中で東京の大学生が受け入れられるようになったという成果は継続の力だと思われる。普段は訪れない若者が町に来ることで、高齢者の多い町に若い刺激を与え、新たな風を吹かせることができるのではないかと感じた。実際に熟年バレーボールチームは、全員が 65 歳以上で最高齢は 90 歳超えという高齢者によって構成されているが、私たちと交流すると若さに負けまいと必死になるのだそう。これまでの 10 年間ごまちゃんは惨敗を続けてきたが、今回初めて 1 勝することができた。熟年バレーの参加者は、口々に「成長したね、強くなったね」「俺達も負けてられないな」と言っていた。私たちが負けることで相手はうれしくなることもあるだろうが、今回の勝利によってより熟年バレーに火をつけ、刺激となることができたのではないかと感じた。

FujisatoREC

FujisatoRECとは、藤里町に関する映像を動画サイトに投稿することで参加できる映像コンペティションである。町民及び外部からの観光客などが藤里町の魅力を映像で伝え、広報する為のプロジェクトであるが、これにごまちゃんも参加させて頂いた。

現代ではいわゆるYouTubeなどの動画サイト及びインターネットが情報の主な提供源である。そこで、YouTubeを使って広報動画を登校し、TwitterなどのSNSで情報を拡散することによって、より多くの人、特に若者に藤里町をアピールすることが可能になる。この活動に私達が参加することで、東京の大学生という、これまでは地域に触れる機会のなかった若者との接点ができ、結果として観光地としての知名度が上がったり、移住者を検討する人が増えるかもしれない。

このFujisatoRECのワークショップを東京藝術大学の方に藤里町かもや堂にて行っていただいたが、藤里町には訪れる度に何か新しくなり成長し、新鮮味があるという魅力があるように感じた。かもや堂は、以前かもや食堂として町民に愛される食堂であったが、店主が亡くなったため惜しまれつつ閉店した店舗跡地を利用して、町おこし協力隊の活動拠点として今年新しく開かれた建物である。

田舎の高齢化の進んだ町という言葉を聞くと、閉鎖的で、昔からの伝統を大切にし革新的なことは好まないというようなイメージがあるが、藤里町は違う。訪れる度に新しい建造物ができ、社協をはじめ町民によるもののみならず、外部の人間による新しいプロジェクトが催されている。

あたたかな町民との交流

今回の藤里町の訪問の主な活動は、高齢者の町民との交流であった。高齢化の進んだ藤里町では、配偶者を亡くし一人で暮らす高齢者が多い。ごまちゃんでは毎回そうした方のご自宅を訪問して傾聴活動を行っているが、何度も同じ方に会っていくと里帰りをした孫と祖父母のような関係性になってくる。私たち自身も「〇〇さんに会いたい」などと希望を胸に訪町しており、自分自信を藤里町の町民の孫であるかのように感じ始めている。町民の中には私たちに会うことを心待ちにしてくれている人も多く、ごまちゃんの訪問が恒例行事となりつつある。こうしたことから、生きがいと言っては言い過ぎだが、日常生活の中のちょっとした非日常を提供できるし、家で声を発さない高齢者の心の声を聞くことで、心理的孤独感を和らげることにも繋がると期待できるだろう。

私たちごまちゃんは普段、八王子市内にある特別養護老人ホームやデイサービスセンターにて傾聴ボランティア活動を行っている。そこでは高齢者の話に耳をしっかりと傾け、

相手のすべてを受け入れ、共感し、心に寄り添った傾聴を行うことが大切であるが、藤里町における私の「傾聴」は異なる。相手の心に寄り添うことは同じだが、藤里町の高齢者は私たちの訪問を、孫が帰省してきたかのように喜んでくれ、受け入れてくれる。特養などの施設においても利用者様は歓迎してくれるが、この歓迎は施設における職員の仲間（利用者様から介護業務をお願いされることもある）としてであることが多く、「町に帰ってきた子ども」というイメージとは異なる。職員ではなく、家族でもないこの関係性は施設においての悩みを打ち明けるのにちょうどいい距離感である。しかし藤里町ではいい意味で気を張らず、本当の孫かのように自ら感じて接することで、職員や他人では補いきれない孤独感などを少しでも埋められればと思う。

藤里町でのこうした活動は、住民ひとりひとりの密な関係性や、信頼関係を築いていくためにも継続することが大切である。今後も後輩に引き継ぎ、私たちごまちゃんと藤里町との交流を絶えず積極的に行っていきたい。